

講義名	海外ホスピタリティ研修		
科目区分	特別研究		
担当教員	栗原 正憲		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限 / 前期 水曜日 4時限		
履修開始年次	2年生	単位数	4
		講義コード	33049

### 主題と概要

「ホスピタリティとは何か」を実践的に学びたい学生には必須の科目である。今年度は、研修先をシンガポールとし、海外ホスピタリティ研修を実施する。事前に「ホスピタリティとサービスの概念比較」、ホスピタリティ産業においてどのようなホスピタリティが発揮されているのか、また海外研修が必要となる旅行英会話などを学び、現地での調査・分析活動をサポートする。ホスピタリティマインドの重要性や日本と海外との違いについて現地研修を通して実体験する。帰国後に海外研修で調査・学修した「海外におけるホスピタリティへの取り組み」について発表する機会を設ける。

### 到達目標

ホスピタリティとサービス概念の違いについて明確に説明できる。  
ホスピタリティを発揮している海外現地の活動を調査し、日本と海外のホスピタリティマインドの共通点、相違点を述べる事ができる。  
日常行動からホスピタリティが発揮できる人材になる。  
海外研修を通して見聞した現地の歴史・文化・観光振興について述べる事ができる。  
海外研修を通じて、コミュニケーション力（傾聴力・発信力）や協調性を身に付ける。

### 提出課題

授業にて、随時小レポートの提出を求める。  
研修旅行中の活動レポートを毎日提出する。  
授業の集大成として「海外におけるホスピタリティへの取り組み」について調査結果をまとめ、レポート提出とグループ発表を求める。

### 評価の基準

平常点 (小レポートと授業への参画姿勢)	50%
研修旅行中の活動レポート	20%
研修調査レポートと発表	30%

### 履修にあたっての注意・助言他

この授業は、海外研修に参加することが必須要件となる。  
少人数かつグループディスカッションが多い授業となるので遅刻・欠席は厳禁とする。  
海外渡航に際して、パスポート取得と健康診断の受診・予防接種等の実施確認が必須である。  
海外旅行に際して、大学が指定する旅行傷害保険への加入が必須となる。  
原則として水曜3・4限の連続授業とするが、授業の特性から変則した授業日の設定があるので注意すること。  
海外研修の時期は、9月初旬とする。  
海外研修での安全確保の徹底のため、規律性・団体行動に不適と教員が判断した場合、当該学生の履修を中止することがある。

### 教科書

.使用しない。

### プリント資料及び参考文献

<教科書>  
なし  
パワーポイントを使用し、授業を進行する。  
<プリント資料及び参考文献>  
必要箇所をプリント資料として配布する。  
参考文献は、適宜講義内に紹介する。

### 授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 現地基本情報と研修旅行手続説明(1)
- 3 海外旅行のポイントと旅行心得・マナー
- 4 ホテル業界におけるホスピタリティ
- 5 旅行英会話(1)
- 6 I R : 統合型リゾートの研究
- 7 旅行英会話(2)
- 8 チーム作り(規律性と協調性)
- 9 現地詳細情報と研修旅行手続説明(2)
- 10 事前研修(調査項目の作成1)
- 11 事前研修(調査項目の作成2)
- 12 海外研修出発前日の確認
- 13 海外ホスピタリティ研修 1日目
- 14 同上
- 15 海外ホスピタリティ研修 2日目
- 16 同上
- 17 同上
- 18 海外ホスピタリティ研修 3日目
- 19 同上
- 20 同上
- 21 海外ホスピタリティ研修 4日目
- 22 同上
- 23 同上
- 24 海外ホスピタリティ研修 5日目
- 25 同上
- 26 海外ホスピタリティ研修 6日目
- 27 研修研修のレポート作成(1)
- 28 研修研修のレポート作成(2)
- 29 グループ発表(1)
- 30 グループ発表(2) まとめ

### 予習・復習

海外研修に向けて、以下のことを予習復習として学修する。(授業前後4.5時間)  
(1)パスポートの申請・取得方法  
(2)海外渡航の手続き  
(3)海外における旅行マナー  
(4)渡航先の気候風土・国情・文化・慣習・現地情報

### 備考

原則として、水曜日3・4限の連続授業とするが、授業の特性から、変則して授業日が設定されることに注意すること。